

4-1-12-1 病理検査室

1. 診療活動

病理検査室では病理組織診、細胞診、病理解剖を柱とした業務を行っている。通常のHE染色に加えて、各種特殊染色、種々の抗体を用いた免疫組織化学的検査や電子顕微鏡的検索を積極的に行い、胎児・胎盤・小児疾患、産科・婦人科疾患などに関する病理診断を行っている。高度先進検査室との密接に連携し、FISH, DNA解析を駆使した遺伝子診断を合わせて、精度の高い診断を行っている。臓器・造血幹細胞移植後の拒絶反応や種々の合併症については、治療方針の決定にかかせない迅速な病理診断を行い、移植成績の向上に貢献している。2005年11月より始まった生体部分肝移植は66例に達し、小児肝移植では全国一の施設となった。当院の肝移植は、代謝疾患や劇症肝不全が多いのが特徴で、劇症肝不全症例においても肝生検が積極的に行われ、移植適応についての貴重な情報源となっている。また、周産期関連では臨床医をまじえて、胎児治療に直結する胎盤血管の検索などの症例検討を行っている。

院内の臨床-病理カンファレンス (ICU、腎臓科) の定期的開催、院内合同カンファレンス (腫瘍、胎児) への参加、他施設からの病理研修生の受け入れを行っている。また、関東・東海・東北地区の小児病理専門医の症例検討会も当センターで開催し、活発な意見交換が行われている。また、日本小児病理研究会会員への情報発信にもかわり、わが国における小児病理の拠点として活動している。

2. 研究活動

高度先進検査室、研究所との密接な連携のもと、小児固形腫瘍を対象として病理学的、細胞生物学的ならびに分子生物学的な解析方法を用いた研究を行っている。

小児固形腫瘍 (ウイルス腫瘍、横紋筋肉腫、ユーイング肉腫、神経芽腫)、小児悪性リンパ腫の多施設共同研究においては、中央病理診断、検体保存施設として、臨床と基礎研究を結ぶ中心的役割をはたしている。

胎児治療施設の病理部門として、稀少症例の蓄積を通じた周産期病理にかかわる情報発信、意見交換を積極的に行っている。

研究所母児感染研究部との共同研究としては、移植後EBウイルス関連リンパ増殖性疾患モデルマウスの作成と解析、慢性EBウイルス感染症の診断、病態解析を行っている。

3. 病理検査件数（平成19年度）

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
組織迅速顕微鏡	6	9	13	8	2	5	5	5	4	9	7	9	82
組織顕微鏡検査	150	126	167	161	172	135	148	151	128	124	138	115	1715
組織顕微鏡検査 2臓器 n×2	24	31	21	27	23	29	19	20	17	12	21	18	262
組織顕微鏡検査 3臓器 n×3	2	2	5	5	3	3	1	1	4	1	3	3	33
電子顕微鏡検査	7	9	8	9	6	5	6	14	5	9	15	7	100
免疫抗体法検査	18	19	27	29	31	24	26	31	24	24	23	16	292
病理組織検査 (12) 計	207	231	272	276	265	236	226	244	207	193	234	192	2783
細胞診 (婦人科)	123	141	140	162	136	97	135	134	112	108	130	103	1521
細胞診 (その他)	48	57	41	32	24	17	31	34	25	18	37	24	388
(特殊染色)													0
細胞学的検査 (13) 計	171	198	181	194	160	114	166	168	137	126	167	127	1909
解剖数 (38) 計	3	0	0	1	0	2	2	2	0	3	1	3	17
ブロック数 (39) 計	120	0	0	40	0	80	80	80	0	120	40	120	680